

生きものモニター通信 vol 3

発行:世田谷区みどり33推進担当部みどり政策課 〒154-8504世 田谷区世田谷4-21-27 電話:03-5432-2282



ビビメダカっちさん提供

ちょこっと空間づくり 講習会を実施しました。

生きものとともに暮らすまちづくりを進め、生活の中に喜びや楽しみを見出してもらうとともに、みどりと生きものの豊かな街づくりを進めていくための事業の一環として、昨年に引き続き、生きものを呼ぶちょこっと空間づくり講習会を実施しました。講師には、植物生態コンサルタントの泉健司さんをお招きし、6月23日、28日の2日間で、56組64名の方が参加しました。

講習会に参加された方には、水鉢、伊勢鍔（川砂利）、ヒメダカ、ヒメスイレンなどを配布し、ご自宅でビオトープづくりを実践していただき、その様子をモニターとして報告していただきました。（2～3頁）



6月23日講義の様子

【講習編】

窓辺から始める自然との暮らし、ビオトープの精神を取り入れた庭づくりについてお話ししていただきました。中でも、呼びたい生きものと植物・環境の組み合わせについて、チ

ョウやミツバチがくるコンテナガーデン、トンボのくる水鉢、野鳥のおとずれるガーデンなどを具体的に教えていただきました。人も生きものも楽しめる「ビオトープガーデン」を作り、地域の生きものが自由に行き来できる環境を作ることによって生物多様性に貢献できるとお話が印象的でした。



6月28日実習の様子

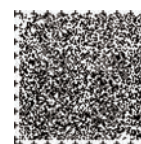
【実習編】

生きものを呼ぶ「ちょこっと空間」づくりについて、トンボと野鳥のための睡蓮鉢の作り方について解説していただきました。睡蓮や水草を利用する

ことで、トンボが産卵できる場所を作る。野鳥が水浴びや水遊びができるように浅瀬を作る。ボウフラ対策のためにヒメダカを飼い、餌はできるだけあげずに、水鉢の中でミニ生態系を作りバランスをとっていくなどのポイントを教えていただきました。

アンケート紹介（抜粋）

- ・植物の特性が判って参考になりました。蝶の来る花とか知らなかった。
- ・地球にやさしいコンテナガーデンの作り方を教わり、自分の考え方、意識が変わった。
- ・育てるのが楽しみです。周りの人と会話が増えそうです。
- ・小さな器の中で、食物連鎖があることがすごいと思いました。
- ・周囲の環境のつながりが大切、生物多様性を実感した。
- ・生きものが好きです。ビオトープを失敗しているので次は成功させたい。
- ・花によってやってくる生きものを選べるのが興味深かった。特に蜂では開くが蝶では開かない花があるのはオドロキでした。
- ・多種類の生きものが暮らせる場所を作ることが良い。生態系のバランスを崩さない。
- ・自然に接する機会が少ないので、有意義でした。ビオトープという言葉初めて聞きました。
- ・今年はベランダにトンボがきてくれそうな？楽しみです。



生きものモニター報告 vol 3

「ちょこっと空間」報告が寄せられました！

7月10日までの報告

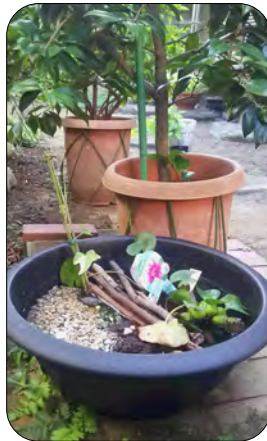
25名の方からモニター報告をいただきました。みなさん苦労しながらも設置場所や水鉢の中の工夫もされていました。特にメダカに関する報告が多く、愛着を持って観察されているようです。



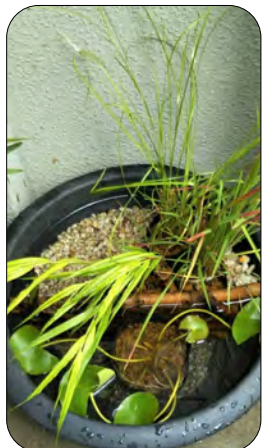
コメットさん
テラスに置いている。小鳥の水浴び場を広くする予定です。シオカラトンボが2回飛んできた。メダカが一匹死んでいた。ムクドリが庭に来ていた。



meisayuさん
玄関前の夏椿の下に設置。この小さな水辺に自然の生きものが近づいてくるのだと講習の話で不思議に思った。今まであまり気に付けていなかった自然の生きものに目を向けたくなった。



イマツさん
大島の火山岩を数個入れ、上に砂利をのせ、移動時のことを考え軽化した。椿の水鉢で日陰をつかった。もらった当日に一匹、5日目に一匹亡くなった。メダカが減らないよう気をつけたい。



世田谷70さん
鉢の仕切りは、水で浮き上がるので、下にわり箸で押さえにした。金魚用の砂を流用した。水草として、家で育てていたフウチソウ、シラサギカヤツリ、ベニチガヤを植えてみた。



s tさん
シラサギカヤツリ等の水生植物を追加して、玄関先に置きました。時間があれば観察しています。



みどりきみどりさん
ベランダの奥側(窓に近い側)に水鉢を設置。レンガの上に置きました。周りに花と人工芝を置いて、朝夕水まきをしているので、少しは涼しいかなーと考えています。日除けをつけました。



ピオ18さん
枝がないのでミニすだれで間仕切りをし、メダカが通れるようにすき間をつくった。水草(ウォーターピー、ホテイアオイなど)を加えた。6月中にメダカ2匹死んでしまった。



カメさん
水鉢の設置は、駐車場の草花を育てている場所を選び、水鉢にコンクリートの熱が直接伝わらないよう下に石を敷きました。水草や浮き草も加え、メダカは快適に過ごしているようです。



老松さん
暫く時間を置いたところ、ボウフラが大量に発生し、メダカが食べてくれるか心配です。頂いた伊勢サビの他、拾い集めた枯れ枝や石を利用し、作ってみました。これからどのような生き物が集まるのか注目です。



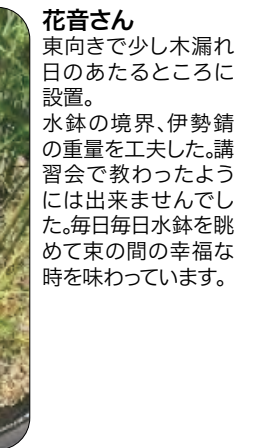
エリさべすさん
庭の半木陰に設置。トンボが今年初めて来訪。ハチとアゲハチョウを見かけました。メダカベビーの誕生を心待ちにしています。



ひめさん
東のベランダ日陰に設置。砂利、小石、ホテイアオイ、鉢を使って、メダカの隠れ場所を作りました。



世田谷育ちさん
講座の翌日、砂を買い足し、作ってみました。家にあったクワイとセリを植え、スライムと金魚鉢にあったアナカリス(?)を入れました。翌々日、メダカを入れ、北側のウッドデッキに置きました。



花音さん
東向きで少し木漏れ日のあたるところに設置。水鉢の境界、伊勢鱒の重量を工夫した。講習会で教わったようには出来ませんでした。毎日毎日水鉢を眺めて東の間の幸福な時を味わっています。



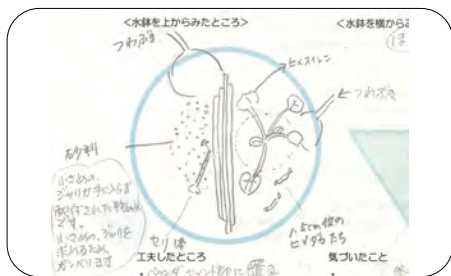
シナモンさん
砂利を斜めにし、鳥が水浴びできるようにした。トンボに来てほしいので、シュロガヤツリを入れた。メダカがボウフラを食べていた。ヒメスライムの根元に小さな葉がたくさん出てきた。



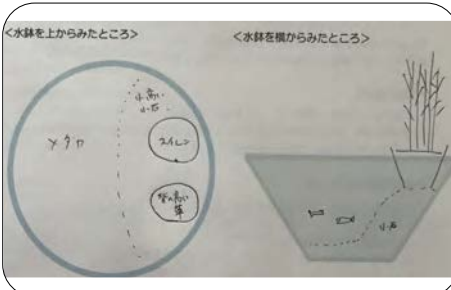
ベネチャルバードさん
ヒメダカはもらった時から、とても弱っていて、3日目はすべて死んでしまいました。新しいメダカを迎えて、水鉢を作りました。家族みんなが毎日覗きこみ、癒しをいただいています。



ピピメダカっちさん
適当な棒も小枝もなかったので、使わなくなった箸をタコ糸で鉢底ネットに固定して間仕切りしました。モミジを配置しましたが、軒先なのでスズメは警戒して寄ってこないかも。



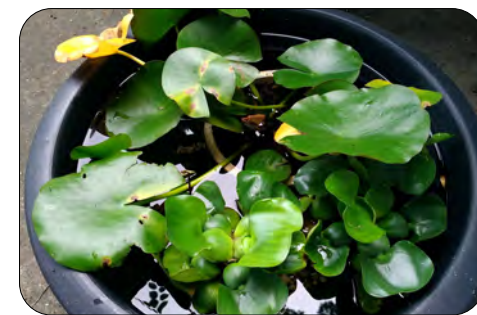
薩摩御女さん
ベランダに置き、大きな葉のつわぶき2枚で直射日光を避けました。セリを一本砂利に挿した。メダカが全て死んでしまったので、新しくメダカを買い、何度も様子を見に行っています。



苔子さん
鉢は、家にある大きなサイズの物を使いました。先生の教えてくださった、木の枝で敷居をつくる方法がうまくいかず、代わりに、大きな石を入れて浅瀬にし、鳥たちの足場にしました。



てるてるさん
当初の予想以上に「ちょこっとピオトープ作り」にはまり込んでしまっている。今やホームセンター、町の園芸店をめぐり、ネット検索で徘徊している自分がいる。老夫婦の楽しみになっています。



まちママさん
水連の鉢を二つ入れました。メダカはまだ環境が整っていなかったのか、1匹死んでしまいました。そこで餌をあげた所、猛烈な勢いで食べていました。今でも少し餌をあげてしまします。



Mickeyさん
1週間以内にヒメダカが全て死にました。そこで、新たに4匹を買いましたが、今日(9日)までに全て死にました。そして、鉢には、小さな貝が沢山発生しました。なかなか難しいですね！

くーちゃんさん
残念ながらメダカは全滅です。睡蓮のつぼみも腐ってしまいました。子供は、先生のいう通りにしたのにうまくいかず、空間づくりへの興味を失ってしまいました。睡蓮は引き続き育てています。



きいみさん
庭の半日陰の場所に置きました。炭や牡蠣の殻もいれてみました。5日ほど経った頃ドジョウ位の蛇が鉢の中にいてびっくり？食べられたかと思いましたが、今のところ元気に泳いでいて良かったと思っています。



モーツァルトさん
木はしっかり洗った。砂利も丁寧に洗った。猫予防に防止マットWebを鉢の周りに敷いた。追加したもの：水草。タニシ2匹。砂利2キログラム位。クレソン。世。カヤツリグサ(?)



せたがや子さん
三日目にメダカが全滅しました(泣)。新しいメダカを迎えて、ピオトープの環境が循環するのを待っています。鉢は周りのグリーンと調和してひと目も癒してくれます。水草などはゆっくり増やして行く予定です。



泉健司講師コメント

みなさん思い思いに楽しみながら工夫している様子が伝わってきて、これからの季節、どんな生き物が立ち寄ってくれるようになるのかとても

楽しみです。

そろそろ睡蓮鉢の水質も安定してエサになるプランクトンも殖えてくる頃ですから、設置してまもなくメダカが死んでしまった人も、そろそろ追加してみても良い頃かもしれません。水草などに着いてきた巻き貝が殖え始めたら、そのまま様子を見てください。睡蓮鉢の掃除をしてくれるはずですよ。

今年は台風の当たり年のためか、いつもなら秋口に台風に乗ってやってくるウスバキトンボももう都内で目撃されているようです。トンボたちが縄張りを主張したりヤゴが羽化するときに登るように田んぼのあぜ道の草をもらってくるのもいいかもしれませんが、時間のない場合はホームセンターなどで斑入りゼキショウ(アルコス)やミソハギ、ハンゲショウなどを買ってきて植えるのもお勧めです。

平成29年度モニターからの写真10件紹介



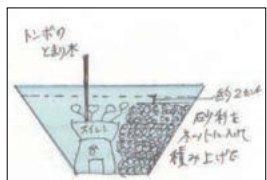
Ryukopineさん



水と緑のママさん



TAIさん



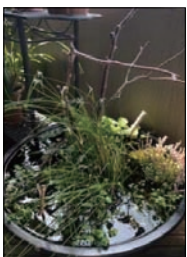
岡さん



Udon koさん



Mas uさん



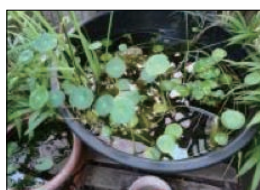
敏造さん



ほけきよさん



メダカ100さん



コアジサシさん

泉健司講師コメント

日陰気味の場所に置くと、藻類の発生は抑えられて穏やかな環境になりやすいですが、その分プランクトンの発生も少なくなってそこで暮らせるヒメダカやヤゴの数は少なめになります。

一方、日なただと藻類も発生しやすく、うっかり餌を与えると水がドロドロになって腐りやすくなります。植木などでほどほどに日光を遮ったりして、水温が上がりすぎないように注意してください。ホテイアオイなどで水面を覆うと水温が上がりにくくなりますが、殖えすぎて水面が全く見えなくなってしまうとトンボが産卵できなくなってしまうので、睡蓮鉢の縁に棒を渡してホテイアオイを片隅に寄せておくのも手だと思います。

水替えは頻繁に行わない方が良いのですが、年に1度か数年に1度は、半分ぐらいずつ水を替えたり底の泥をホースなどで吸い出したりしてもいいかもしれません。ヌマエビを飼っている場合は、水質変化に弱いので、水替えは半分ずつぐらいに控える方が無難です。

ヒメスイレンが咲かないのは、主に日照不足と思われるので、思い切って睡蓮鉢から出して浅めのポリバケツなどに入れて日当たりのいいところで栽培すると、たくさん花を着けてくれるようになると思います。

フラワーランドみどりの専門員から水生植物についてのアドバイス



スイレン



シラサギガヤツリ



ウシノシツペイ
(ヒメアジ)

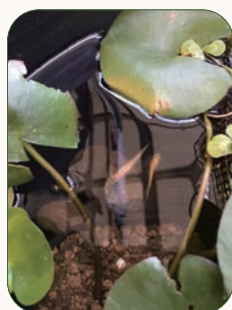
水草とは、陸上に進出・適応・進化した高等植物のうち浸水・水没しても長期的に生存可能となった種の総称であるといわれます。基本的に日照を好み、早く育つための肥料も好みます。美しい花をつけるものも多く、専門に愛好する方も多くおられます。

日照、肥料についてふれると、スイレンなどは、株の生長点に日が当たらないと花芽を形成しづらくなります。また、施肥もした方が好結果となります。ですから、自分の葉で影をつくってしまい咲かなくなったなんてこともあります。

水について見ると、湿地の水は常に動いているので、水温が上がりにくいですが、水鉢のようなたまり水では、高温になると腐ってしまいます。肥料分が多ければなおさらといえます。対策として、水鉢に毎日のように新しい水をそそぐことをお勧めします。容器内の水を入れ替え、自生地の環境を再現する意味もあります。ヨシの様に水を多量に吸い上げるものも多く、夏場の水鉢の水の減り方には驚かされます。うっかりしていると水切れとなり、水草の調子を落としてしまうこともあり、日々の観察の大切さを痛感します。

環境の変化に敏感で、湿地全体を覆うように繁茂していた水草が翌年は1本も見られないこともあり、水草の管理は難しく、出たとこ勝負と教えられたことを思い出します。

メダカトビックス



目の位置が高いので、目高（メダカ）。食性はプランクトン植物のほか、小さな落下昆虫なども食べる雑食性です。気になる寿命ですが、自然下では短命で1年くらい、上手に飼育すれば5年くらい生きるとも言われています。成長が早く、春に孵化して夏に産卵することもあります。昼行性で、夜間はじっとしていることが多いです。産卵は早朝に行われ、しばらく、メスは卵をつけたまま泳いでいるが、やがて水草に産み付けます。品種改良されたヒメメダカですが、世代交代していくうちに原種にもどっていくとも言われています。かつては、「目が良くなる、乳の出が良くなる、泳ぎが上手くなる」として食べられていたとか。

編集後記・次回報告の締め切り

みなさんの報告はいかがでしたか。多くの方が生きものを呼ぶための工夫をした水鉢を設置してくださいました。次回のモニター報告は9月20日締め切りです。水鉢の周りで見つけた生きものなどの素敵な報告をお待ちしております。

